

令和3年度（2021年度）

学校関係者評価 報告書

学校法人巨樹の会
下関看護リハビリテーション学校

本報告書は、学校法人巨樹の会 下関看護リハビリテーション学校の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

令和4年7月1日

学校長 林 研二

学校評価実施責任者

理学療法学科 副学校長兼事務長代行 山崎 圭

看護学科 副学校長 森寺 智子

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

- 1) 学校関係者評価の目的、方針
- 2) 学校関係者評価委員
- 3) 学校関係者評価委員会の開催
- 4) 学校関係者評価の実施

2. 学校関係者評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生の募集活動、広報活動
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅷ 法令等の遵守
- 項目Ⅸ 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

業界関係者	:	山口県理学療法士会 副会長	綿谷 昌明
		安岡病院 看護部長	古本 たつ子
		下関リハビリテーション病院	小河 一彦
卒業生	:	下関病院 看護師	八木 航亮
		下関市立市民病院	宇都宮功一
地域住民	:	下関市市議員	安岡 克昌
		彦島自治連合会 会長	二見 勝敬
高校等評価委員	:	下関国際高等学校 副理事長	山口 和也
		下関中等教育学校 学校長	山本 弦
地方公共団体	:	下関市市議員	板谷 正
		下関市市役所 福祉部	岡崎 敏郎

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会	日 時:	令和3年9月30日(水) 14:00~16:00
	場 所:	下関看護リハビリテーション学校 会議室・講堂
第2回委員会	日 時:	令和4年3月10日(木) 14:00~16:00
	場 所:	下関看護リハビリテーション学校 講堂

4) 学校関係者評価方法

令和3年9月の学校関係者評価委員会にて、学科ごとに評価するのではなく、合同で委員会を実施することに賛同を得、3月の委員会は合同で実施した。

令和3年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果および内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施した。

【評定基準】

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
- A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等については、学内掲示・学生便覧・パンフレット・HP等で広く公表することで周知を図っている。教育理念に基づいて学年毎の到達目標を作成し、学生に提示し、学生も1年間のクラス目標・スローガンを立て、それを基に個人の目標を立てて勉学に励んでいる。

年度初めに講師会議を行い、また毎月の実習指導者会議において意見交換を行っている。現在実施している周知の方策を継続し、理解を促していく。

課題

特になし

改善の方策

今後も継続する。

学校関係者評価委員会からの意見

特記になし

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

総括に記載のとおりである。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

総括に記載のとおり、便覧やHPなどで、周知されている。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

教育課程編成委員会ならびに実習指導者会議等を通じて、業界ニーズを取り入れている。外部講師にも確認をとり、新カリキュラム作成に取り組み、学科内で話し合いをされ、検討されている。

努力はされているが、入学対象人口が減少していく中で、学生数をどのように確保するのか、如何に魅力的であるとPRするのか積極的な活動を期待する。

項目Ⅱ 学校運営

総括

年度ごとに学校法人巨樹の会の方針が出され、それに基づき学校の教育方針、重点目標を設定している。年度初めに学科の管理目標を提示し、各学年運営と教員の個人目標を設定し、9月に中間評価、3月に年度末評価を行っている。

学校運営会議・管理会議が意思決定の場として十分に機能し、教員会議で報告検討することで、教職員の意思統一が図れている。

情報システムについては、学事サーバーにて情報管理を行って業務の効率化を図っている。職員間の情報交換に関しては、グーグルドライブを用い活用している。

セキュリティの向上を図るために、学生にはSNS使用時の研修を入学時に組み入れた。タブレットを使用するようになり4年目であり、昨年度よりコロナ禍にあり、リモート授業やシミュレーション教育、リモート会議等活用できている。台風や大雨コロナの濃厚接触者で登校できない場合も自宅で授業を受けるようにしている。また双方向授業支援クラウドツールである「ロイロノート」を用いて学生に連絡できている。今年度は保護者にもスクリーンを用いて連絡を取れるようにした。会議もペーパーレスで資料配信や情報共有できている。

課題

情報セキュリティについては、教員の教育等も含めて今後も継続して強化を図っていく必要がある。

改善の方策

情報セキュリティや個人情報保護について研修会等を実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

タブレットを活用できているが、学生の提出状況に問題があるようである。複数名に対応するときにタイムラグが生じているようなので、改善を求めると。

目標がやや抽象的で結果に対する評価となっているので、明確な目標を立てる必要がある。
今後 ICT になれた学生が入学してくるので、益々の教員のレベルアップを期待する。

小項目 II-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S : 適正

■コメント

総括に記載のとおり、策定されている。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

運営方針・計画は学科会議にて全員に意思統一を図り、学科会議で提案されたことは、最終的に管理会議、学校運営会議で決定されている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学事サーバーやファイルサーバーの設置、ICT 教育の推進により、効率化を図っている。

関連学校の会議はリモートでの会議を用いるなど、効率化を図っている。

タブレットを用いて会議や授業を実施している。課題も明確になり、S 評価でよい。

項目 III 教育活動

総括

学校法人の教育理念のもと、指定規則に従い、教育課程編成を考え、学年別の到達目標を挙げている。学生の理解や意欲の状況を見ながら学習の支援を行っている。理学療法学科は新しい指定規則のもとで、理学療法士協会のモデルコアカリキュラムに準拠してカリキュラムを作成している。看護学科は令和4年度からの新カリキュラム構築を実施してきた。教員全員で取り組むことで共通認識ができ、各領域の専門性を考える機会となった。教員は各自が授業計画を立案し、学科会議の中で検討することを継続している。授業評価は各科目の終了時に受け、データ

ーが即グラフ化され、タイムリーに分析、表示できている。教員は評価を分析し次の講義に活かしている。

キャリア教育に関しては、1年次より段階的にスキルアップできるように、教科外活動を含め、カリキュラムに組んでいる。専門職連携教育(以下 IPE と記す)を一昨年から実施し、校歌を上げている。看護学科の新カリキュラムでは IPE は必須であり、理学療法学科と協働し、今後も勧めていく

課題

実施していく中での修正をどのように行っていくのか検討する必要がある。

改善の方策

必要時評価を実施し、検討を進めていく。

学校関係者評価委員会からの意見

ICT 及び IPE については、継続されているため、工夫も見られ、効果が出ている。

中間評価は必要で、必要ならば変更していくと良い。

小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教育課程の編成方針、実施方針に関しては教育理念のもと、指定規則に従い、グループのカリキュラム委員会運営委員会で決められている。

【看護学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

新カリキュラムの構築に伴い、旧カリキュラムの評価を行っている。教育課程の方針や必要な資料も提示されている。

本法人の看護学科4校のカリキュラム委員会で新カリキュラムについて意見交換を行い、意見を参考にしている。

小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

看護学科とともに専門職連携教育(IPE)に取り組んでいる。各学年で後期に実施予定。多職種の役割について学ぶことができています。

理学療法技術の習得のために、教授方法・演習方法を工夫している。具体的には、タブレット端末を用いた実技指導や実技試験時のフィードバックや復習などに活用を行っている。

1年次、2年次にはOSCE(Objective Structured Clinical Examination 客観的臨床能力試験)を実施し、学生の能力、課題を把握するようにしている。

効果的な実習を行うために、実習指導者と連携し実習指導を行っている。また、指導者には卒業生も多数含まれている。

ICT教育については、教育用アプリの活用、動画による実技テストの振り返り、小テストやアンケート実施など、タブレット活用による教育が広がってきている。遠隔授業の実施にもタブレットを活用している。タブレットの使用方法は限定的であり、もっと幅広く使えるように情報収集が必要である。教育におけるICTの活用方法について3月に中央研修を実施予定である。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

ICTを使った実習補完教材の活用を行っている。特にコロナ禍で臨地実習に行くことができず、学内実習にて臨地での学びが得られるように工夫した。

演習ではタブレットを用いて、技術実践の状況を映し出し、クラス全員が同じ内容を確認でき、意見交換できている。また、自分の技術の状況を撮ってもらい振り返りに活用している。

理学療法学科と共に、IPEを実施して2年目である。新カリキュラムでは授業科目として必須なので、経験を生かして今後も理学療法学科と共に工夫していく。学修したことが実践で生かされているのか、今後実習での評価も行っていく予定である。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

・学生に授業評価アンケートを実施している

・専任教員においては、教員間での授業評価も実施し、フィードバックも行っている。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

・終講試験終了時と実習最終日に学生はアプリを用いて、授業評価している。その結果は掲示し周知している。教員は内容を共有して授業改善に活用している。

・技術演習やシミュレーションには教員が参加し、学生に学習状況から方法や評価の仕方など意見交換し、次に活用している。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

・1年次より国家試験対策を実施。3年次には、セミナーや個別指導も実施。卒業生(不合格者)へも対応を行っている。

・3年生の国家試験対策では自己学習、学生同士の少人数での口頭試問、セミナー、模擬試験を連動させた計画を遂行した。また、成績不良者については早期より教員による少人数指導、口頭試問など実施してきた。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

・各学年で国家試験合格し、資格取得に向けて教科外活動の研修内容など工夫している。各担当が中心となり、創意工夫し学科会議で検討しているが、まだ100%の合格を出していない。自ら学習する力をどのようにつけさせるか、検討していく。

・模擬試験の結果を可視化し共有しながら適宜方法を修正を重ね、フォローしている。

・既卒生のフォローも行っているが、定まった対応ではない為、今後対策を検討する。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取り組みが行われているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・学会、研修会への参加を奨励している。
- ・今年度は新型コロナの影響もあり参加が少なかったが、法人(関連校合同)では教育に関する研修会が3回開催され、全教員が参加した。
- ・研究を奨励しており、今年度は1名の教員が論文を国雑誌に投稿し掲載されたり、病院との共同研究で学会発表を実施している。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

研修会や学会への参加を義務付けており、教員の研鑽意識も高い。今年度はコロナ禍で実際に学会にはいくことができなかったが、ズームでの参加など積極的に参加されている。

項目IV 学修成果

総括

就職に関しては、開校以来100%を達成している。

国家試験結果に関しては、合格率は100%ではなく、教員全員で100%合格に向け、1年次より取り組んでいる。しかし入学生の状況は選定できる状況ではなく、学習習慣のついていない学生がほとんどである。学力不振者に早期から関わることや、保護者面談等を通じて学生の生活習慣から関わる等の対策を行っている。

スクールカウンセラーが定期的に来校し、活用している。

課題

入学者の学力が低下傾向にあるため、早期から対策を実施していく必要がある。

改善の方策

ICT教育等を有効に活用して、効率的な学習を行えるように工夫を重ねていく。
昨年度の評価を踏まえ、学生の状況をみて、教員全員で取り組んでいく。

学校関係者評価委員会からの意見

今後も、努力をお願いしたい。また国家試験不合格者へのフォローも継続をお願いしたい。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

目標:就職率100%(就職希望者)

実績:14年連続100%

3年生卒業生数55/60名(卒業生/4月在籍者数91.7%)

就職内定者数51/54名(就職内定率94.4%)

進学者0名

【看護学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

開校以来、就職率100%を達成している。

求人案内は図書室に掲示し、自由に閲覧できるようにしている。

進学:2名

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

【理学療法学科】

目標学科100%

今年度実績:国家試験受験者数59名(内訳:現役55名、既卒4名)

国家試験合格者数55名(内訳:現役52名、既卒3名)

国家試験合格率 93.2% (内訳:現役 94.5%、既卒 75.0%)

昨年度実績、89.2% (新卒全国平均 86.4%)

今年度の取り組み状況

年度初めから、国家試験対策についての年間計画やシステムについて検討した。

グループ校統一模試を作成し、半期毎に実施した。さらに全国模試(3科目模試)を年度末に実施予定である。

グループ学習を止め、個人学習と2~3人での口頭試問、教員による分野セミナー、個別対応を活動の主とした。模擬試験後には「模擬試験セミナー」として教員による全問題の解説を実施し、知識の定着や症例イメージを伝えるなど工夫した。

成績不良者への対応については、例年より1か月早い10月から土曜・祝日登校を義務付け、教員による少人数対応を行った。成績不良者の選抜についても、学年主任、担任、役職者で最新の成績や学習への取り組み状況などを頻回に協議し、躊躇することなく見直しを行った。例年に比べ、今年度は体調不良(主にメンタル面)のために継続的な登校が困難な学生が多く、個別対応や面談など行い学科教員で支えた。

【看護学科】

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント

今年度 卒業生35名 国家試験受験者35名 既卒生7名

自己採点結果 必須 80%未満 2名

一般状況 70%未満 2名 (既卒2名)

・3年生: 模擬試験を実施し、成績低迷者にチューターをつけ、夏季及び冬季にセミナーを実施した。年間を通して模擬試験計画を立て、実施してきた。学生の状況を見て個別に口頭試問したり指導してきたが、今後も対策が必要である。

・1年生: 解剖生理学を中心に研修内でポニー及びマインドマップ作成し、人の日常生活動作を関連させ、学習を重ねてきた。学習発表会を実施した。

・2年生: 実習が学内となり、受け持ち患者の疾患の理解をするために、関連した国家試験問題を解いて振り返りをしている。また、看護計画発表の際、病態生理を踏まえ、今後の予測を立て、理解したことを皆に説明する時間を設けている。実習終了後春休み前に必須問題に取り組む予定である。

過年度の反省を踏まえて、国家試験対策を1年次から実施している。国家試験不合格者への

フォローも実施している。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

1. 退学者数 (2月21日現在)

1年生退学者数:6名(退学率 7.7%)

2年生退学者数:2名(退学率 3.4%)

3年生退学者数:1名(退学率 1.7%)

全体退学者数:9名(退学率 4.6%)

2. ストレート卒業率

ストレート卒業率 80.3% (昨年度卒業生 71.4%)

49/61(ストレート卒業生数/元年度入学者数)

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

・退学者数:今年度はまだ0である。

・ストレート卒業率

80.1% (入学時41名 卒業時33名)

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

・ボランティア活動、地域清掃、地域や施設の祭り補助等の参加状況の把握を行っている。

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ボランティアの募集がまったくない状況となっている。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・学生の活動実践記を評価し、卒業時表彰している。
- ・ボランティア活動(地域清掃)等参加を促し、活動状況を把握している。今年度はコロナ禍で清掃活動のみ実施している

項目V 学生支援

総括

各学年及びクラス担当制、副担当制を取り、定期的に学生との面接を実施している。成績や出席状況に合わせ、保護者とも連絡を取り合い、年に1回保護者会を開催し、学校生活の状況や国家試験に向けての取り組みなど説明し、連携を図っている。コロナ禍のためリモートでの保護者会となったが、親子で参加し、個別で面談もできた。

就職活動セミナー、マナー講座、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報の共有を図り指導に役立っている。合同就職説明会や、関連病院説明会等対面やリモートを活用して、就職支援している。

実習や技術試験の前には、学校を18時まで使用でき、自主的にシミュレーターなど活用することもできる環境の提供を心掛けている。

学科によって終了時間は異なるが、国家試験前には学習の為20時半迄学校を開放し、教員の指導のもと学習している。国家試験学習のため8階サロンを密にならないように学習室に変更し、図書室に学習机を設置した。

課題

学習習慣を持たない学生が入学してくる実態もあり、今後も支援を強化していく必要がある。

改善の方策

信頼される学校づくりの基本として、国家試験合格率100%を目指し、一年次の早期から学習状況を把握し、面談を実施しながら学力の向上を図る。適宜学習成果のテストを実施し、振り返りを行う。

教科外活動を毎年見直し、特別講義や特別講演を取り入れる。

学校関係者評価委員会からの意見

理学療法学科の教員に、ICTの健康管理について講演を行ってもらった。とても丁寧な内容で

あったので、継続してほしい。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

コロナ禍ではあったが、5月にお仕事サポートセンター職員による「履歴書の書き方」「面接での注意点」、青山商事職員による「スーツ着こなし講座」を実施した。7月には合同就職説明会(福岡国際センター)を対面で開催し、159施設(前年105施設)のご参加をいただいた。また、10月には本校にて対面とオンラインでの就職説明会を開催し、60施設(前年41施設)の参加をいただいた。

学年主任、担任、就職委員会を中心に、学生の就職活動状況の把握に努め、学科内での情報共有が十分に図られた。また、面接指導や履歴書指導・添削もほとんどの学生に実施するなど、昨年からの改善がなされた。

昨年度の反省を踏まえ、年度当初より学生へ就職活動を促し、12月中に100%内定を目指してきたが達成することはできなかった。次年度は12月までに内定率100%が達成できるよう、学生への促しを積極的に行う。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

・四月に実習施設しない四施設と、関連病院の就職説明会を実施した。

・四月実習前に就職ガイダンスを行い、就職先の決め方や、願書履歴書の書き方など指導している。実際に提出する際には内容を確認し、清書させ提出している。

・未履修科目を持っていると就職活動できない為、できるだけ未履修科目をとらないよう一・二年次よりしっかり学習させる体制をとっていく必要がある。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

【理学療法学科】

- ・担任制：定期面談の実施、必要に応じ随時面談実施
- ・必要に応じ役職者を交えた面談実施
 - ・必要に応じ保護者面談実施
 - ・校内カウンセラーの配置し、学生の希望によりカウンセリング実施
 - ・学科での学生情報共有

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・担当を中心に面談する体制をとっている。必要時役職者と共に面談を実施している。
- ・カウンセラーと連携をとっている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・成績や生活面で気になる学生に関しては早期に保護者連絡を実施。
- ・必要に応じて保護者面談の実施。
- ・1年生、2年生の保護者会を対面と遠隔を組み合わせて実施。
- ・緊急時の連絡先の把握ができています。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・再試験になった科目が発生した時や、態度その他気になるときに担当が中心となり、保護者と連絡をとっている。
- ・各学年保護者会を実施している。今年度はコロナ禍でリモートでの実施となった。
- ・保護者へも一斉にメールで連絡ができるようにした。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・高校訪問、高校ガイダンスでの情報提供実施した。ガイダンスは、中止になることもあったが、昨年度よりも多く参加することができた。また、遠隔でのガイダンスの開催も数件あった。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・高校訪問やガイダンスに参加している。リモートでのガイダンスにも参加している。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学校(法人)独自の支援として以下の制度等を実施している

- ・早期入学者に対する初年度授業料減免制度
- ・家族入学割引制度
- ・特待生減免制度
- ・社会人入学金免除制度
- ・災害被災に伴う学資支援制度(法人)
- ・学生寮を完備

情報提供については、学生支援機構等の情報も含め、HP やパンフレットにて実施している。また、学内に奨学金専用の掲示板を設置し随時掲示している。

・理学療法学科については、地方自治体や病院・施設等からの奨学金の情報提供を調査し、掲示板にて告知している。

項目VI 教育環境

総括

施設・設備・備品・図書等については、設置基準ならびに関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスαで揃えている。

ICT教育についても今年度もタブレットで電子テキストやソフトを用い、ICTを進めている。e-ナーサトレーナーを3年生に活用し、教員が患者になるなどして、臨地に実習に行くことができない期間のシミュレーション教育に効果がある。

理学療法学科と共に在ることを活かし、シミュレーション教育を取り入れ、IPEも実践した。学年ごとに目標を立て、実践した。今後も3年間を通しての学びを計画する予定である。

卒業生に対しても図書室等の利用を可能とし、卒後のスキルアップに活用できるようにしている。防災訓練についても、計画を立てて防災避難訓練を年2回計画したが、コロナ禍で実践に至っていない。しかし、防災教育(机上)を実施した。

課題

職業実践専門課程の認定を取得しており、今後も日々進歩する医療情勢に対応できるような人材育成を目指す。そのために学生が自主的に自由に学習できる環境(高度化シミュレーター等)を整えて、演習を組み入れていく。

改善の方策

設備・備品については、購入計画を立てて充実を図っていく。
シミュレーションができる実習室の配置を理学療法学科と共に考え、演習を組み入れていく。

学校関係者評価委員会からの意見

継続して教育環境の充実に取り組んでいただきたい。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教室のプロジェクターを最新の物(HDMIケーブル対応)に取り換えた。また、合同教室の後方座席用モニターを設置した。

合同教室でマイクの声が聞き取りやすくなるように、スピーカー・アンプの交換・調整を行った。

また、パソコン教室専用のマイク・スピーカーを購入・設置した。

オンラインと対面のハイブリッド授業や保護者会などの開催に向け、集音マイク・スピーカーを購入し、頻回に使用している。

次年度に向けて、3月には学生更衣室の床の張替えとロッカーの入れ替え、各教室に据え置きapple TVを設置予定である。また、骨模型についても現状の1.5倍になるよう追加購入を予定、教室の床の張替え予定している。

今後、経年劣化に伴う修復だけでなく、さらに校内の環境を整えていく予定である。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・学習設備は必要に応じて点検・整備なされている。
- ・学習に必要な設備投資も適切になされている。
- ・今年もコロナ禍のために臨地実習に制限が出たが、早々に各領域担当が実習目的に合う内容の事例での実習を組み立てることができた。しかし、領域ごとの実習場所を確保できず、シミュレーションは一年生と二年生の演習とも重ならないように調整が必要であった。
- ・休憩場所や食事場所が狭い教室しかなく、黙食の指導を行ったが、不十分である。サーキュレーターを購入してもらい、各教室に設置した。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

・臨床実習、対人関係演習などカリキュラム内の科目に関する実習施設は十分に確保されてい

る。

- ・カリキュラム改訂にともなう、デイケアや訪問リハ施設の実習地確保についても確保できている。
- ・教育体制については、法人内のリハビリ関連5校と関連病院との連携が十分にとれ、本校においても教員が実習訪問し指導者との調整や学生指導を実施している。

【看護学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

- ・指定規則にそって、必要な実習施設は確保できている。またその施設とも実習指導者会議を行い、情報交換し指導内容や評価に反映させている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

- ・年1回の消防訓練も実施し、記録も適切に保管している。
- ・消防設備等の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応している。
- ・今年度の消防訓練は、10月に実施した。
- ・昨年度から続く、新型コロナの感染拡大に対しては、対応マニュアルを作成するとともに、全教職員で日々情報共有をはかり、適宜、看護、理学、事務の役職者が対策について確認しあって、各事象に対処した。

項目VII 学生の募集活動、広報活動

総括

学校パンフレットやホームページ、オープンキャンパス・学校説明会での情報提供以外に、高校教員向け学校説明会を年2回開催、学校ガイダンス等にも積極的に参加している。コロナ禍で対面が困難なことが多くあったが、リモートで実施するなど工夫した。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測される。

また令和4年度から当法人の大学が開校する。養成所の教育の特徴を明確に打ち出す必要がある。

改善の方策

高校から信頼をして学生を送っていただける学校、地域から認められる学校を目指して学校運営を行っていくとともに、学校の情報を正確に伝えていく努力を続けていく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

- ・高校訪問、高校ガイダンスでの情報提供実施した。ガイダンスは、中止になることもあったが、昨年度よりも多く参加することができた。また、遠隔でのガイダンスの開催も数件あった。
- ・理学療法学科に関しては、受験対象者のオープンキャンパス動員数が減少した。次年度に向け、オープンキャンパスの内容の見直しを行っている。また、WEBによる広告を増やすとともに告知内容についても見直しをかけている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

- ・パンフレット、HP、学校説明会、高校教諭向け学校説明会、オープンキャンパスでの情報提供を実施している。また、志願者からの問い合わせに対し個別に対応実施。学校説明会やオープンキャンパス参加者の方々からは好評を得た。
 - ・今年度は、オープンキャンパス・学校説明会を日曜日だけでなく、土曜日にも実施したり、異なる時間に実施したりと参加者が選択できる設定とした。
 - ・また、遠隔での参加者については、できる限り希望時間に応じるように心がけた。
- 資格取得状況ならびに就職状況についても、正確に伝えている。

項目Ⅷ 財務

総括

事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と各学校財務で確認を行う2重チェックで財務管理が行われている。また、決算及び予算については、理事会で検討・承認が行われ、会計監査の実施により、適正に行われている。また、事業計画については、学内の両学科で検討・調整を行い、予算計画を立てて運営している。

課題

全教職員へも学校経営に関する意識づけを行うために財務に関する情報を伝えていく。

改善の方策

年度中間・年度末に学校長・事務長・両学科副学校長・経理担当者で確認を行うとともに、全教職員へも周知を行っていく。

学校関係者評価委員会からの意見

法人の理事会や評議会で評価する内容であると考え、適正に実施されているので、評価通りでよい。

小項目Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

- ・中長期的な計画の下、学校運営がなされている。
- ・法人全体としても安定した収入と資産があり、財政基盤は安定しているといえる。
- ・本校においても学生数は増減があるものの、経営努力により収支の均衡は保たれている。

小項目Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

・学校の運営方針に沿った事業計画に基づき、両学科が調整を図ったうえで予算を計上し、法人本部・理事会で承認された予算が通達される。それに基づき本校では適切な運営がなされている。

小項目Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

財務は、法人本部と各学校の2重体制の管理が行われている。また、法人および本校に対して外部監査が年間に複数回行われており、これまで特に大きな指摘は受けていない。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令順守は、法人全体で取り組まれている。本校においても①学校基礎調査②専修学校各種学校評価③学校指定規則に基づく報告を毎年行い、法令を遵守している。

個人情報保護に関しては、法人全体で規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨床実習における学生の個人情報保護については、SNSの取り扱いを含めて指導を徹底している。

課題

本校では、これまで問題は起こっていないが、昨今、世間ではSNS等を通じての情報漏洩や不適切動画の投稿などが問題となっているため、今後も職員ならびに学生に対して教育を継続していく必要がある。

改善の方策

教職員・学生に対して、SNSならびに個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

法人の審議事項であると考え、総括通りでよい。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・学校法人でハラスメント委員会を設置し、各校から委員が選出されている。
- ・ハラスメントマニュアルも策定している。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・個人情報保護法に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外来講師、学生が厳守すべき事項が定められている。
- ・実習における個人情報保護に関しては、SNSの取り扱いも含め指導を徹底している。また、教職員に関しても個人情報の管理についての注意喚起を定期的に行っている。

項目 X 社会貢献・地域貢献

総括

関連病院等に施設を貸し出し、また高齢者体験キッド等教材の貸し出しも実施している。地域に対して本校はボランティア活動を推奨しているが、今年度はコロナ禍で清掃活動のみ実施できた。

課題

試験や実習等の重要な学事に重ならないボランティアを増やす。

改善の方策

地域と連携を取りながら、地域のボランティア情報を入手するとともに、学校独自の地域清掃活動などを継続していく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・産学連携に関する方針・規定については、協定書に記載。
- ・関連病院、職能団体や卒業生へも施設の貸し出しを行っている。
- ・関連病院職員、卒業生へも図書の閲覧を許可している。
- ・理学療法学科教員による、高校部活動支援を実施している。ただし、昨年度と今年度については新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み実施できなかった。
- ・近隣の高等学校で、心身の健康に関する講演を職員2名が実施した。
- ・理学療法学科教員による、職能団体や下関市の事業(介護認定審査会)へ協力はなされている。
- ・今後も施設及び教材の貸し出し等協力をしていく。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

- ・コロナ禍でのボランティアへの積極的な促しはできなかった。
- ・下関の海峡マラソンには学生がボランティアとして参加した。
- ・1年生のカリキュラムの中にあるボランティア活動については、新型コロナ感染拡大の影響により、ボランティアの募集がまったくない状況であったため、海岸の清掃活動などを体験させた。
- ・今後は、ボランティア活動に対する表彰など検討していく。